



◀洗練された姿を見せる「北大路まちなか住宅コラボレーション'02」の街並み。写真の住宅を手がけたのは、右から満野久氏・大谷孝彦氏、林史朗氏、天宅毅氏



▲満野久氏・大谷孝彦氏が手がけた住宅は、採光性の高さと空間の広がりが見事に調和。水廻り等をコンパクトにまとめることで、無駄なスペースをできるだけ抑えてある



▼「ロングライフハウジング」をテーマに設計された林史朗氏の住宅は、ライフステージの変化やメンテナンス、バリアフリー・高齢者への配慮などがなされている。広くてフレキシブルなリビング・ダイニングも魅力だ

8teamの建築家が共演

北大路まちなか住宅コラボレーション'02

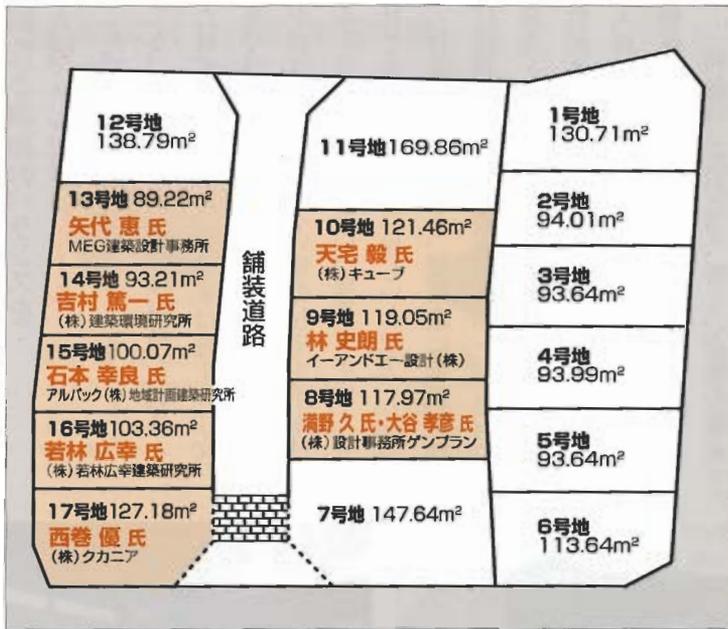
新しい「まちなか住宅」を創造するコラボレーション

京都の住宅会社「(株)ゼロ・コーポレーション」が主催するプロジェクト「北大路まちなか住宅コラボレーション'02」が、昨年末ついに完成した。

「京都の30年後の良質な街並み」というコンセプトのもとに実現された街づくりは、都市型低層住宅に関して充実したツールとコンテンツをもつ同社ならではの新しい試み。都市部における住居のあり方、周囲の環境との調和、良質な街並み、景観といった問題に対して、将来のモデルを示したといえるだろう。

プロジェクトの大きな特徴としては、「コラボレーション」という新しい設計手法を採用したことが挙げられる。コンペ(競技設計)ではなくコラボレーション(協働)。著名な住宅建築家8チームそれぞれが建売住宅を手がけ、入居者が仲良く住めるよう互いに連携した「まちなか住宅」





■所在/京都市北区小山東大野町66-1番地ほか
■地域・地区/第一種低層住居専用地域・10m高度地区
■容積率/100% ■建ぺい率/60%
■1区画平均面積/117.39m²(35.51坪)



◀▲西巻優氏の「真壁の木の家」は、木の素材感を生かした温もりが心地いい。アイランド型キッチンだから、家族みんなで料理を楽しめる



◀▲天宅毅氏が手がけた「黒壁の家」。駐車スペースでもある前庭は、車のない状態で格子戸を全開すると、外部に開放された空間としても利用できる

三人のコーディネーターがプロ達の個性を調整

創造への取り組みだ。計画に先だつて同社は、京都市北区、地下鉄北大路駅から徒歩約3分という市内でも指折りの好立地に約2300平方メートルの土地を取得。敷地を17区画に分け、そのうち8区画の設計を建築家チームに依頼した。

建築家は、天宅毅氏(株式会社キューブ)、石本幸良氏(アルバック 株式会社

地域計画建築研究所)、西巻優氏(株式会社クカニア)、林史朗氏(イーアンドエー設計株式会社)、満野久氏・大谷孝彦氏(株式会社設計事務所ゲンプラン)、矢代恵氏(MEG建築設計事務所)、吉村篤一氏(株式会社建築環境研究所)、若林広幸氏(株式会社若林広幸建築研究所)という、これ以上ない豪華な顔ぶれ。

そこに、広原盛明氏(京都府立大学前学長)、松岡拓公雄氏(滋賀県立大学環境科学部教授)、葉山勉氏(京都精華大学芸術学部助教授)という3人の識者がコーディネーターとして加わり、プロたちの個性のぶつかり合いを調和させている。敷地全体の近隣環境や景観を大切にしながらも、それぞれの持ち味を生かし、統一感のある街づくりを実現させた。

個性と調和のバランスを大切に設計ルール

ただ、ひとりで「コラボレーション」というのも、プロジェクトの遂行は容易ではなかったはずだ。一般的に、建築家は施主の注文を受けて設計することが多く、どんな人が買うのか分からない建売住宅を手がけることはほとんどない。建築家が住宅会社と手を組むことは珍しいという。

住宅会社にしても、建築家に依頼すれば設計料もかかって販売価格が上がるので、商売としてはやりやすいとはいえない。個人的な作家のデザインは、誰にでも受け入れられるものになりにくく、とくに建売住宅には不向きだからだ。

「利益にこだわらず、新しい京都の街並みを生み出したかった」というゼロ・コーポレーションの理念がなければ、建築家・コイデイナーたちのチームワーク、そしてプロジェクトの実現はなかっただろう。

「30年後の良質な街並みとは、いったいどのようなものか」「街並みを統一させるという合意を設計者8人でとれるのか」「景観に関して、誰が責任をもつのか」「何らかの制限が必要ではないか」「京都らしさとは」「等々、解決・調整していかなければならぬ問題も多数あった。ともすれば「安っぽい」「画的」と言われることの多い建売住宅のイメージを払拭するため、建築家それぞれのオリジナリテイも大切に



街並みへの優しい表情と、シンフルな住空間の創造に力点が置かれた石本幸良氏の住宅。テラスと体になったリビングは、ホームパーティーなど集いと語らいの場に



唯一の3階建てである若林広幸氏の住宅は、日本瓦の屋根がダイナミック。個性的な外観がひととき目をひく。テラスや玄関スペース、リビング吹き抜け部分に漂うクールな雰囲気にも注目だ



矢代恵氏の「SOHOのある家」(下写真の右端)は、タテヨコに空間の広がりを感じられる(左下写真)。吉村篤一氏の住宅(下写真の右から2番目)は、駐車スペースとつながる中庭がコミュニケーションの場に(左上写真)



【建築家の主な作品・業務実績】



天宅 毅氏(株式会社キューブ)
 モデル住宅「西宮復興住宅メッセ・モデルハウス」、コーポラティブハウス事業「デュプレックス宝塚千種」など。神戸・長田東部地区 復興まちづくり型分譲住宅設計コンペ最優秀賞受賞 コンペ作品「長田戸建コーポラティブハウス」。



石本 幸良氏
 (アルバック株式会社地域計画建築研究所)
 京北町産直住宅モデルハウス設計、府営住宅西天王町団地実施設計、和束町営住宅建設工事の調査・基本・実施設計、醍醐団地総合再生事業など。



西巻 優氏(株式会社クカニア)
 百済の里づくり基本計画(愛東町)、和泉三林地区開発計画「環境住宅商品づくり」(日商岩井株式会社)、大阪ガス町家ショールーム実施設計・工事監理、西質茂合理化住宅新築工事実施設計工事監理(京都市住宅供給公社)など。



林 史朗氏
 (イーアンドエー設計株式会社)
 サンタウン新光風台「第6回大阪みどりの景観賞」優秀賞受賞、「第15回大阪まちなみ賞」奨励賞受賞、「まちなみ住宅」設計コンペ「最優秀賞」受賞(京都市景観・まちづくりセンター、都市居住推進研究会)など。



満野 久氏・大谷 孝彦氏
 (株式会社設計事務所ケンプラン)
 <京都府和知町> 和知町立和知小学校建築工事・設計監理業務、<京阪電気鉄道> 株式会社 八幡市立美濃山小学校校舎等整備工事・設計監理業務など。
 ※写真は、大谷氏です



矢代 恵氏(MEG建築設計事務所)
 <住宅>美山の家・大澤寺の庫裏・光と風の住まい、<店舗>PUBHOUSE DOM・DINING BAR 种族館、<ビル>SPACE STATION・向日ビル・長田オフィスビルなど。1998年インテリアコーディネーションコンテスト「通商産業大臣賞」受賞。



吉村 篤一氏
 (株式会社建築環境研究所)
 志賀町の家(滋賀県志賀町)、今辻子の家(奈良県奈良市)、港南台の家(横浜市港南区)、高安の家(大阪府八尾市)、西陣の町家(京都市上京区)、上京の町家(京都市上京区)など。



若林 広幸氏
 (株式会社若林広幸建築研究所)
 南海空港特急rapid(ブルーリボン賞受賞)、京つけもの西利本社ビル、京阪宇治駅(グッドデザイン賞)、阿里山1白梅町店、U-2ビル、毎日新聞京都支局、千種町総合福祉施設エーガイヤちくさなど。

なければならぬ。
 心から住みたいと思える家、街並み全体の質、そして京都らしさと将来への可能性。街並みの調和を守りながらも、家の個性を大切にするため、ルール設定には細心の注意がはらわれた。「外壁と屋根の色は、グレーか黒を基調とする」「建物の正面に軒を出す」「敷地の境に共有の木を植える」など最低限のものだけが定められた。
 こうして出来上がった8棟は、どれもモダンでありながら、京都らしい伝統を感じさせる上品な佇まい。木造建築にこだわった優しい表情も印象的だ。気品と存在感を感じさせる「黒壁の家」や木の温もりが心地よい「真壁の木の家」、現代の家族のかたちに対応した「SOHO(スモールオフィスホームオフィスのある家)」など、建築家それぞれの個性もしっかりと生かされている。それでいて、それぞれが美しく調和し、ひとつの街として統一感を保っているのも魅力だ。
 8棟の延べ床面積は101〜125平方メートルで、価格は5千万〜7千万円。普通の建売住宅よりも高いが、建築家の設計にしては安いという。すでに入居者も入り始めている。
 デザイナー住宅の場合、その一軒の個性が際立ち、街並みと調和していないことも多い。しかし、今回のような試みは、今後



株式会社ゼロ・コーポレーション

- 事業内容
 街づくり、市街地再生、高品質住宅の制作、都市計画シンクタンク
- 本社住所
 京都市北区紫野上野町108-1
 (市バス46系統「紫野上野町」下車)
- 電話番号
 075(495)1000(代)
- http://www.zero-corp.co.jp/

の街づくりを考えるうえで大きな意味をもつだろう。業界や行政に対して、新しい手法を提示したといえる。何よりも私たちに、街と住まいを真剣に考えさせるきっかけになったのではないだろうか。